

静岡理科大学 広報誌



キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

2010

1

VOL.36



特集

NHK大学ロボコン・全日本学生フォーミュラ参戦!
エコスクールバス運行開始!
文部科学省「学生支援推進プログラム」に採択

2011年度 就活始動!

12月1日にアクトシティ浜松で「企業研究講座」を開催しました。学生は企業の事業内容や求める人材像などの説明に熱心に聞き入っており、就職に対する強い意気込みが感じられました。



もうすぐ“はたち”です!

学長 荒木 信幸

新しい年を迎えて心新たにしておられることと思います。

大学には、さらに思いを新たにしている学生諸君がおります。成人式を迎える方々です。大学生の多くは、18歳で入学し、在学中に成人式を迎えます。私は入学式の折に、入学生の皆さんを紳士淑女、つまり大人として扱うことを申し上げております。大学の自治という学究の場の特性からだけでなく、学生諸君が、法律的な成人を直近に迎えることを意識してのメッセージなのです。ぜひ自立した大人としての自覚を持って行動して下さいようお願いしているのです。

今回は、もう一つの成人に目を向けてほしいと思います。静岡理科大学は、平成3年4月に開学しましたので、来年4月には20周年を迎えます。本学に関わるすべての方々にとって「心新たに」すべき年を迎えるのです。人は、新年にせよ、成人式にせよ、古来、節目となる時期を特別に定めて、お祝いや式典を催してきました。これは、来し方を振り返り、来るべき未来を見つめるために必要欠くべからざるものであるからです。

私は、本学が開学20周年を契機として、将来に向けて大きく躍進するようにしたいのです。そのための記念事業を企画し、実行に移したいと考えています。基本的には、大学の教育・研究機関としての役割を本質的に果たし、大学の総合力（ブランド力）を高めるための事業です。それを進める上で持つべきビジョンとして、次のような大学をめざしたいと考えています。

[学生が主役となる大学、 地域において存在感のある大学、 環境に配慮し、持続的
社会形成に貢献する大学] です。

具体的な事業の内容については、組織委員会、企画委員会、実行委員会を組織して検討中ですが、3月末頃までには決めたいと思います。

新しい年を迎えての機会に、大学に思いを馳せて、20周年記念事業をどのようにすべきかを皆で考えてみませんか。

夢・希望にむけて実現の道を進んでいきましょう!

遠州灘

2009年は、ガリレオが望遠鏡を初めて夜空に向けてから、400年の節目となる世界天文年でした。日本の科学技術が作り上げた「かぐや」によって、月の裏側が初めて見られた年でもありました。また、やや曇りがちでしたが、夏の盛り7月22日に、46年ぶりの皆既日食が日本の陸地で観察されました。人類の営みによる地球温暖化や、百年に一度の経済危機をよそに、自然は常に私達を感動させてくれます。われわれはどこから来たのか。われわれは何者か。われわれはどこへ行くのか。というゴーギャンの問いかけの答えは、自然の中にあるのかもしれない。世の移り変わりに振り回されず、確かなものを一步一步身に付けつつ、本学も、皆さんと共に、成長していきたいものです。(K)

学 科 紹 介

理工学部物質生命科学科



物質生命科学科は、“地球環境”をキーワードに素材を学ぶ「環境新素材コース」、化学とバイオテクノロジーに加えて私達のもととなる“食”を学ぶ「バイオ食品化学コース」の2コース体制です。

「環境新素材コース」は、太陽や自然のエネルギーを電気に変換し蓄積するマテリアル、ハイブリットカーに必要な強力磁石、自動車排気ガスなどの有害物質を分離・分解する触媒など、様々な機能性材料を通して環境・エネルギー問題の解決に挑戦します。そこで、物理・化学・生物・地球科学を含む自然科学と、新物質・新素材を含む材料科学の分野を学び、物質とエネルギー、環境を総合科学するコースです。

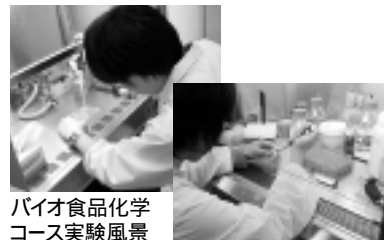
「バイオ食品化学コース」は、食品の機能と安全を遺伝子工学と分析科学で取り扱う“食品バイオ”分野、微生物の有用機能で環境を良くする“環境バイオ”分野、命と健康を見つめ、環境にやさしい化学合成の開発と、これらを応用して医療品創出を目指す“クリーン化学”の3分野からなり、命と暮らし、環境を総合科学するコースです。

“分かれば面白い、面白くなるともっと知りたくなる！”その為の基礎科目。“知識を身に付け、実験で実感し、問題解決能力を養成！”その為の専門科目と充実した実験科目群。“さらなる専門性と勉学が身に付く！”各々が各自のテーマで行う卒業研究と卒研発表。これらの科目と共に、高校教員一種（理科）免許、公害防止管理者、甲種危険物取扱主任者、毒劇物管理者、食品衛生管理者などの資格取得もサポートしています。

個性溢れる教員の面々と学生さんが日々研鑽しています。



CO₂回収装置と、装置内で使用されている触媒の一種ゼオライトの構造模型



バイオ食品化学コース実験風景



機器センターでの実験

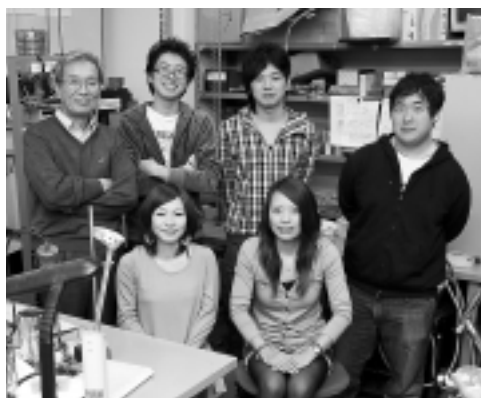
物質生命科学科 出口研究室

おじゃまします。

当研究室の公称は“結晶物性研究室”です。かつて絶縁体と言われ最近は誘電体と称される結晶を調べています。特に、物質の表面に正負の電荷が自然と湧き出る性質（強誘電性）の結晶学的起源を探る事が研究の中心テーマです。最近は“結晶”もセラミックスや薄膜、微粒子と様々な形態に展開しています。それらを作製し、性質の温度特性や周波数特性などを調べて

います。また15年ほど前から、結晶に数万気圧の圧力をかけて、新規の機能を発現させる研究に没頭しています。水深100万メートルに対応する水圧を圧力セル中で発生させて物質の変化を探る研究は、実験屋のチャレンジ精神を刺激するに十分過ぎる繊細かつ大胆、そして実り多い分野です。

研究室訪問



研究室学生からひとこと

井伊 一斗

最近注目を集めているCCTOセラミックスの研究をしています。セラミックスは陶磁器のことですが、その成分と焼結条件によっては、例えばCCTOのように巨大な誘電率を持つセラミックスができあがります。なぜCCTOの誘電率が巨大なのかを探るため、焼結条件の異なる各種のセラミックスを作り切断・研磨して試料を作成し、それらの誘電率を10K～300Kの温度範囲、0.001Hz～20MHzと10桁にわたる周波数範囲で測定しています。最近少しずつ、この現象のメカニズムが分かってきました。それとともに、研究の面白さを実感できるようになりました。大変ですが充実した大学院生活を送っています。

第25回

NHK大学ロボコン2009

NHK大学ロボコン2009～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会～が6月7日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センター大体育室にて開催されました。

書類選考等を経て、3度目の本大会出場を果たしましたが、結果は予選敗退と残念な結果となりました。

今大会を終えたクラブMCF本多司部長に、大会を振り返っての感想や、今後の目標などについてお話を伺いました。

司 会 本大会出場に向け、ロボット製作時には何を意識しましたか。

本多さん 「昨日の自分より今日の自分の方が出来るが増えている」と思えるような製作状況にしようと思意識しました。製作は初めての連続でしたが、少しずつでも新しい技術を得られるようにと思い、努力しました。

司 会 では、大会を振り返ってみて、今の心境は大会前とどう変化しましたか。

本多さん 「やるだけのことはやった」という気持ちと「もっと出来ることがあったんじゃないか?」という気持ちの半々です。全力で取り組み、大会当日を迎えたのですが、競技を始めたロボットは、センサの調節が上手くいっておらずコースを走ることも精一杯でした。しかし、他の大学のロボットはすさまじい速さでゴールまで向かって行ったので「自分たちはまだまだだな」と思い知らされた感じでした。

ただ、自分とほとんど歳も変わらない人たちにあれだけのことが出来るのだから、「自分たちにも出来るはず!」と気を引き締めることが出来ました。

司 会 後を引き継ぐ後輩達に伝えたいことや、期待することはありますか。

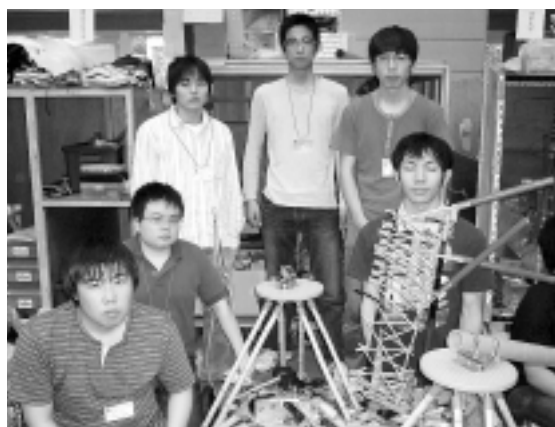
本多さん 「みんなで作る」ということを意識してもらいたいです。製作に関わる人数が多くなればなる程、連絡は上手く伝わらず、それによるミスも多くなります。1人1人の技術の向上も大切ですが、それをみんなと共有できなければクラブという団体で活動している意味が無くなってしまいます。

司 会 将来の夢を教えてください。

本多さん ものを作る仕事に関わっていきたいです。ものを作るのが好きだからクラブで活動し、NHKロボコンにも出場できました。その好きなことを自分の仕事で出来るとしたらとても幸せなことだと思います。

司 会 最後になりますが、在学生の皆さんに伝えたいことはありますか。

本多さん ものづくりに興味があっても「初心者だから何をしたらいいかわからない」という気持ちがあり、ものづくり系の部活への入部を迷っている人もいるのではないかと思います。しかし、行動を起こさなければ何も変わりません。入部する、しないに関わらず、まずはクラブの見学に行ってみてはどうでしょうか?どのクラブも快く受け入れてくれると思います。



第7回全日本学生フォーミュラ大会

第7回全日本学生フォーミュラ大会が9月9日(水)~12日(土)にエコパにて開催されました。

全種目への出場を果たすものの、多くのマシントラブルに見舞われ、満足な結果を残すことができませんでした。

大会終了後にSISTフォーミュラプロジェクトの矢部洋介リーダーに、大会を終えての感想、後輩達へ託す思いなどについてお話を伺いました。

司会 昨年度から、特に力を入れ改善を行ったことを教えてください。

矢部さん 今年は、「新技術へのチャレンジ」を目標に掲げてフォーミュラカーの改善に取り組みました。主に、サスペンションアームのカーボン化です。この項目は、静的審査の評価にも繋がるため、各箇所の軽量化・部品の共通化なども行いました。

司会 大会が終わり、どんな心境ですか。

矢部さん 個人的には2回目の大会でしたが、今年も本当に寝る暇が無いまま大会を迎え、大会が終わった時は、大会を乗り切った達成感と、結果を受けての後悔が残りました。

司会 それでは、次回の大会に向けて後輩には何を期待しますか。

矢部さん 今大会は最上級生が2人ととても少なかった分、来年度は殆どのメンバーが今年と同じ役割を分担するので、今回の経験が活かされて良い結果を出してくれるのではと期待しています。

司会 では、来年度に向けての課題はありますか。

矢部さん 第一に、ドライバーが速く走らせることができる車を作るのだと思います。しかし、いくら速い車を作っても、ドライバーも学生なので、ドライバーが乗りこなし易くなければ結果が伴いません。この問題は来年度に限らず今後も課題となってくると思います。

司会 今大会では、デモ走行でしたがフォーミュラカーとは別で、EVフォーミュラの試走を行ったと伺いましたが、車輛の製作では苦労しましたか。

矢部さん 電気自動車自体の仕組みも解らなければ、何からはじめていいのかもわからない状況だったので、とりかかるまでが一番難しかったです。でも、いざ取り掛かってみたら、EVフォーミュラもフォーミュラカーなので、エンジンやクラッチなどの動力駆動系以外の部分では基本的には同じでした。

司会 最後になりますが、メッセージはありますか。

矢部さん 学生フォーミュラ大会を通して、ものづくりの基礎や楽しさを学ぶことができ、とても貴重な経験をさせて頂きました。また、スポンサーを引き受けて下さった企業様、活動を見守って頂いたチームOBの皆様、そして大会を運営して下さいました皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。



学長杯フットサル大会

7月4日(土) 学長杯フットサル大会(クラブ連合委員会主催)が、本学フットサル場にて開催されました。9チームのトーナメント方式で行われ、フットサルサークルがハンディとして、1名少ない1チーム4名で試合に臨みましたが、日々の練習の成果をいかに発揮し、多彩な個人技で次々と得点を重ね、見事優勝を飾りました。



市民体験入学

8月23日(日) 本学にて「市民体験入学」を開催し、250名が参加しました。全体講義には、諏訪東京理科大学 共通教育センター 教授の篠原菊紀さんが「脳を鍛える活脳トレーニング ~最新の脳科学で、あなたの未来が大きく変わる~」と題して講演を行った後、午後からは、本学教員による9テーマの選択講義を行いました。



オープンキャンパス

7月26日(日)・8月8日(土)・9日(日)・22日(土)の4日間に夏のオープンキャンパスが行われ、期間中は高校生・保護者ら860名が訪れました。60以上の研究室や屋外施設が開放され、バイオ燃料を使用したスクールバスやハイブリッドカーに使用されているモーターのカットモデル展示なども行われました。



高・大一貫教育 夏期実験講座

8月25日(火)から28日(金)の4日間にわたり、静岡北高校および、星陵高校高・大一貫コース2年生・3年生を対象に、大学の設備を使った夏期実験講座が行われました。3泊4日の日程で、文字通り「実験漬け」になって、生徒が様々なテーマの実験に取り組み、科学の面白さを体験しました。なお、この講座は大学の単位として認定されます。



市内小中学校理科実験講座

9月7日(月)に袋井南中学校、9月29日(火)に浅羽中学校、10月21日(水)に浅羽南小学校、10月29日(木)に今井小学校で、袋井市教育委員会との連携事業「理科実験講座」を実施しました。本年度で4年目を迎えた本事業では、袋井市の掲げる「心ゆたかな人づくり」の具現化を目指しています。



大学祭

10月31(土)・11月1日(日)の両日、第19回大学祭「SISTIVAL 09」(実行委員長:3年 緒方 智美さん)が、開催されました。テーマは「BEST」。今年はメインゲストに、人気デュオのDewを迎え、市民も含めた多くの来場者が、その歌声に聴き入りました。テーマ通り「BEST」な大学祭を開催することができました。



公開講座

9月19日(土)、10月17日(土)に、本学にて「後期公開講座」を開催しました。1回目は、「あなたの携帯電話はどうなっちゃうの?」をテーマに本学の郡武治教授と上智大学 理工学部 情報理工学科 の服部武教授が、2回目は、「地球に優しい自動車」をテーマに本学の土屋高志准教授と三菱自動車工業株式会社 開発本部 MiEV技術部 担当部長の和田憲一郎氏が講演を行いました。



防災訓練

1月8日(金)に、本学にて「総合防災訓練」を実施しました。訓練は、「緊急地震速報による地震発生が告知された後に、地震が発生。直後に火災が発生。」という設定で実施し、学生、教職員ら400名が参加しました。参加者は、教職員による避難誘導に従いグラウンドへ避難し、その後、消火器を使った消火活動を体験しました。



通じる道



NSKワーナー株式会社
経営管理部 総務人事グループ
夏目幸彦さん

NSKワーナー(株)と理工科大のつながりは、採用・就職、工場見学を兼ねた課外授業、学生フォーミュラ、大学祭への協賛そしてサッカー部の交流試合など、考えてみると結構あるものです。しかし、どちらかといえば受身的で、産学連携、社員教育等の観点では、もっと我々からアプローチしていく道もあるのではと考える次第です。

道といえば通勤通学で愛野駅方面から同じ道を通ります。徒歩通学の学生は朝が辛いのか、元気がないみたいで、「大丈夫かな」と感じる時があります。どうでしょう？

反対に、NSKワーナーの従業員は、「運転に歩行者優先の気持ちがない！」という印象を持たれないよう襟を正すべき場面があるのかもしれない。

今後も会社と大学、従業員と学生が、お隣さんの付き合いの中、いい意味で影響しあえる道を歩み、そして、開いていきましょう。

思いやりの場作り



高南児童クラブ
村松正子さん(写真向かって左)
河内泰子さん(写真向かって右)

私達は、高南小学校内の空き教室において、学童保育の指導員をしております。

1年生から3年生までの子供達27名(男児14名、女児13名)をお預かりしております。

子供達は、学童保育「放課後子供教室」で、理工科大学の皆さんとふれあう機会をとっても楽しみにしています。学生さん達とのふれあいは、子供達には大切な体験であり、貴重な思い出となっています。反面、参加された学生さんにとっては、子供達の物おじしないストレートな言動に接し、驚きを感じられたのではないのでしょうか。

このような子供達との関わりを通じ、地域社会への貢献体験として少しでもお役にたてばうれしく思います。また、私達指導員も、この学童保育の場が、心温まる安らぐ場所、お互いが協力しあい思いやりをもてる大家族のような楽しい場所となるよう心がけております。

これからも、理工科大学の皆さんの積極的なご参加・ご協力を頂きますよう、よろしくごお願い申し上げます。

スポットライト がんばれ!理工科大生



僕たち自動車部は、先日エコパで行われた全日本学生フォーミュラ大会に出場しました。大会のメインは、学生が作製したエンジンカーが様々な競技を行う大会ですが、本年度はデモ走行という形で電気自動車(以下EV)の走行を行いました。

デモ走行を行ったEVは、2007年度に全日本学生フォーミュラ大会に出場した車両を土台に、エンジンなどのEV化に不要な部品は取り除き、代わりにモータやバッテリーなどを搭載し、地域企業様からは、リチウムイオンバッテリーや充電器等のご支援をいただきながら制作しました。

ただ作るのではなく、車輛性能を向上させるため、バッテリーを「鉛バッテリー」や「リチウムイオンバッテリー」に換えてみたりして、結果としてモータを1つ壊してしまう程の試行錯誤を繰り返しました。

完成したEVは、リチウムイオンバッテリー化でエンジンカーと比較し、車両重量の約20kgの増加、コストの増加、高電圧化に対する絶縁不足など多くデメリットが目立ちましたが、ご支援いただいた企業様と話し合うことで問題が解決したりと貴重な体験ができたと思います。

鈴木智也(電気電子工学科2年)

エコスクールバス運行開始!

スクールバスが バイオマス燃料で運行開始

7月22日(水)から、学内スクールバスがバイオマス燃料での運行を開始しました。バイオマス燃料は家庭で使わなくなった天ぷら油から精製されているので環境にやさしい燃料で、地球温暖化の原因とも云われているCO₂削減に寄与しています。本学の土屋先生、十朱先生、山崎先生がバイオマス燃料の精製方法を研究しており、その実用化の一環でもあります。

学内では、「使用済みてんぷら油」の回収を毎月5・15・25日に実施しており、学生および教職員が持ち寄った量は63.8ℓ(12月25日現在)となり、168kgのCO₂削減につながっています。



食堂のリニューアル



9月24日(木)から学生食堂と売店がリニューアルされました。

新たに食堂・売店を運営するヤタローは、ホテル・レストランの経営も行っており、そのノウハウを本学食堂に活かしてもらっています。「美味しくバラエティーに富んでいるのに、価格はリーズナブル」な食事で、食堂は学生の皆さんで毎日賑わっています。

また、売店は、コンビニ同様の品揃えは当然ですが、その他に「お昼は外で食べたい!」という方のために、テイクアウト専用のお弁当など、品揃えも充実させています。静岡県中部・西部で有名なパン屋さん「シャンボール」のパンも、毎日焼き立てを提供しています。大学に来た折には是非立ち寄ってください。

なお、本年3月には第2弾リニューアルを行い、4月にはオープンカフェも完成する予定です。

学長 日本宇宙少年団静岡県支部代表理事に

5月31日(日)、荒木信幸学長がNPO法人日本宇宙少年団静岡県支部の代表理事に就任しました。

日本宇宙少年団では、宇宙探求や宇宙開発で得られた専門知識や技術を、科学実験教室・宇宙講演会等を通じて、子どもたちに「地球(いのち)科学(くふう)宇宙(ゆめ)」を伝える活動をしています。

本学はこの活動を支援し、宇宙に加えて航空についても子どもたちの夢を育てていきます。



荒木学長(前列右から4番目)

ビジネスプランコンテスト入賞

11月17日(火)、情報システム学科4年生の加藤貴久さんが、がんばる起業応援ネットワーク主催のビジネスプランコンテストで審査委員期待賞を受賞しました。

加藤さんの提案した「特産・名産品紹介サイト～特da名～」は、静岡県内で埋もれている特産品・名産品を紹介する中で、新たなビジネスチャンスと共に地域振興を促すというプランでした。

今回、このプランの発案のきっかけや将来の夢についてお話を伺いました。

司 会：なぜ「ビジネスコンテスト」に応募しようと思ったんですか。

加藤さん：自分の持つアイデアがどれだけ社会に通用するののかという事が知りたかったのと、アイデアを何かしら形として残せればと思い応募しました。

司 会：何がきっかけで、今回のプランを閉きましたか。

加藤さん：ある時、僕自身が地元静岡の名産品を全く知らないことに気づきました。そこで、調べてみると200近くもの名産品がある事がわかったのですが、「これだけ多くの名産品があるのにアピール出来る場が少ない」という部分に疑問を感じたことが、今回のプランへと繋がりました。



司 会：プランの作成を振り返ってみて、大変だったことはありますか。

加藤さん：自分の頭の中にあるアイデアを整理して、他の人にも理解してもらえるように「分かりやすく現実味を持たせなければならない」という事や、実際に起業して経営していくには、「利益を出す」ということを優先して考えなければいけないなど、理想を現実に変える大変さを味わいました。

司 会：「ビジネスプランコンテスト」に応募してよかったことは何ですか。

加藤さん：他大学の学生や企業の方とお互いのビジネスプランについて意見交換したりと普段ではなかなか経験できない多くの事が経験できました。今回した苦労の全てが自分の成長に繋がり、これまで以上に大きな自信というものを得られたと思います。

司 会：今回のアイデアを元に起業することを考えていますか。

加藤さん：自分のアイデアをこのように評価してもらえたので、チャンスがあれば、実際に起業してみたいです。今回のプランは、多くの人に協力をいただき完成したもものなので、この場を借りて協力していただいた方々に感謝したいと思います。これからも多くの理工科大生がこのコンテストに参加し、評価される事を期待しています。

司 会：今回のプランが元となり実際の起業へと繋がっていくよう頑張ってください。本日はありがとうございました。



加藤さん(写真左側)

特集

文部科学省「平成21年度 大学教育・学生支援推進プログラム」に採択

文部科学省による、平成21年度 大学教育・学生支援推進事業 学生支援推進プログラム（就職支援の強化など総合的な学生支援）に、平成21年度～23年度の期間で採択されました。

本学では「ものづくり企業で生きる就業力育成をめざす就職支援」をテーマとし、教職員が協働して学生へのキャリア形成支援（学士力の確保・技術者としての就業力の育成）を行います。つまり、職業生活や社会生活で必要な技能を地元企業が求めるレベルまで引き上げ、結果として学生が満足する企業・職種へ就職することを目標とします。

具体的には、卒業研究指導教員による強力な指導とあわせ、求人情報の常時提供、基礎能力育成講座や業界研究セミナー、企業見学会の実施に加え、新たに相談員を雇用し、面談による、自己価値観や職業観の育成を図る取組みを実施しています。



サークル紹介

科学実験工房

部長 廣岡 瞳（物質生命科学科3年）

科学実験工房は、自分たちの気になる現象について実験したり、子供向けの出張実験が主な活動です。今年は一年生が多く入り、ワイワイ楽しみながらサークル活動をしています。

今年は毎年参加している、静岡科学館くるくでの科学の祭典、ものづくりフェスタに加え、小学校への出張実験なども行いました。

忙しいサークルですが、子供たちの驚いた顔や嬉しそうな顔をみるとやっていて良かったといつも思います。

活動の中で、実験がうまくいかなかったときに、試行錯誤して改良していくのも楽しいです。

科学は理屈っぽくて難しいものではありません。その証拠に301実験室に来てください。

きっと楽しそうに活動している私たちがいるでしょう。「実験が好き」、「子供が好き」、「科学を好きになりたい」そんな気持ちのある人は是非一度見学に来てください。



授業科目の紹介



航空設計工学は、機械工学科

航空工学コース2年生後期に開

講されている必修科目です。

航空工学コース2年生後期には

航空設計基礎も必修科目として

開講されていますが、こちらは

航空機の形状を決めるための流体

力学、空気力学、飛行力学等を勉強

します。航空設計工学では、航空機の機

体を設計するための航空機材料学、構造力学、破壊力学、空弾性等

を学んでいます。

航空設計工学

それまでに学んだ微分積分、材料力学、材料学等をさらに深く勉強し、航空機を出来るだけ軽く、また絶対に壊れないように設計する手法を勉強します。航空機は厚さ数ミリメートルの薄板で構成されているために、一般の工作機械等とはかなり異なる構造ですが、自動車や新幹線等との交通機関とは似た様式です。この科目で学んだことは航空機関係の仕事に就く人以外にも、広く機械工学全般の業務に役立つはずで、各講義の最後には課題を出し、講義内容の理解を深めるようにしています。

後援会
だより

父母懇談会の開催

10月31日(土)に「父母懇談会」を開催しました。大学祭初日で賑う中、297名と前回を超える多くの方にご参加頂きました。全体会では、塚本光洋後援会会長並びに荒木学長挨拶の後、人材サポート・キャリアカウンセラーの竹内弘行氏をお招きし、「最近の就職事情」と題した講演を頂きました。続いて「学科別懇談会」では本学教員から、学科の教育内容・就職状況等の説明を行いました。午後から実施した「個別面談」には75名の方が希望され、助言教員からの説明に熱心に耳を傾けていました。保護者の皆様からご意見を伺うことができた、貴重な時間となりました。



同窓会
だより

ホームカミングデーの開催

11月1日(日)の大学祭2日目に「第9回ホームカミングデー」を開催しました。

当日は、卒業生やご家族、教職員など約250名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。今回は、「同窓生の縦の繋がりを創出する」という趣旨のもと、「コミュニケーションタイム」を実施しました。また、恒例の大抽選会とあわせおおいに盛り上がり親交を深め合うホームカミングデーとなりました。なお、今回ご多忙の中にも関わらずホームカミングデーの企画・開催にご協力いただいた同窓会役員の皆様にもお礼申し上げます。



2009年6月に待望の富士山静岡空港が開港し、その一月後にはフジドリームエアラインズ(FDA)が就航しました。私はシステムエンジニアとしてFDAシステム全般の保守、WEB予約システムと空港自動チェックイン機の開発を担当しています。FDAシステムは海外ベンダとの協調により構成されており、ドキュメントや打合せなど英語の使用頻度は非常に高いです。高い技術力と語学力が要求されますが、大学で学んだことを日々活かし対応しています。

大学で主催された海外セミナー参加が語学習得の契機となり、3年次には1年間ですがカナダ留学を決意するに到りました。理想の実現に向け挑戦する私をさまざまな面で後押しして下さった先生方、卒業研究を通じコミュニケーションから専門技術まで英語で幅広くご指導頂いたマクナブ先生に深く感謝しています。

システム対応はFDA業務へ支障の無いよう迅速かつ効率的に行う必要があります。極めて高い信頼性が要求されます。責任は大きいですが、地元静岡でこのような仕事をするのにやりがいを感じています。今後さらなるサービス拡充と地域貢献を目指し、能力を磨き業務に励んでいきたいと思っております。

鈴与システムテクノロジー株式会社

馴田 浩志さん(第10期卒業生 情報システム学科出身)

活躍する卒業生



馴田さん(写真右側)

編集後記

静岡理科大学も再来年度は創立20周年つまり“はたち”となり、現在の在学生在が生まれた年と同じような時期に大学は創立されました。今回はNHKロボコン、学生フォーミュラ、ビジネスプランコンテスト等の学生の活躍が数多く紹介されています。大学も学生に負けず、より一層の進化を遂げていきますのでご期待下さい。(T)

静岡理科大学キャンパスニュース
平成22年1月29日発行
企画・編集・発行/静岡理科大学 大学広報委員会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
<http://www.sist.ac.jp>